

# 学校における自覚的裸眼視力 の問題点

蕨眼科

河鍋楠美

2013年11月9日（土） 第44回 全国学校保健・学校医  
大会

# 目的

他覚的屈折値と自覚的裸眼視力の相関について検討した。

# 対象

小・中学生について、昭和**63**年  
(**1988**) から平成**8**年 (**1996**) の9年  
間に調査した視力と屈折度のデータが  
両方とも揃っている児童生徒、小学校  
2校の**8392**名、**16784**眼、中学校**1**校  
の**5668**名、**11336**眼である。

# 方法

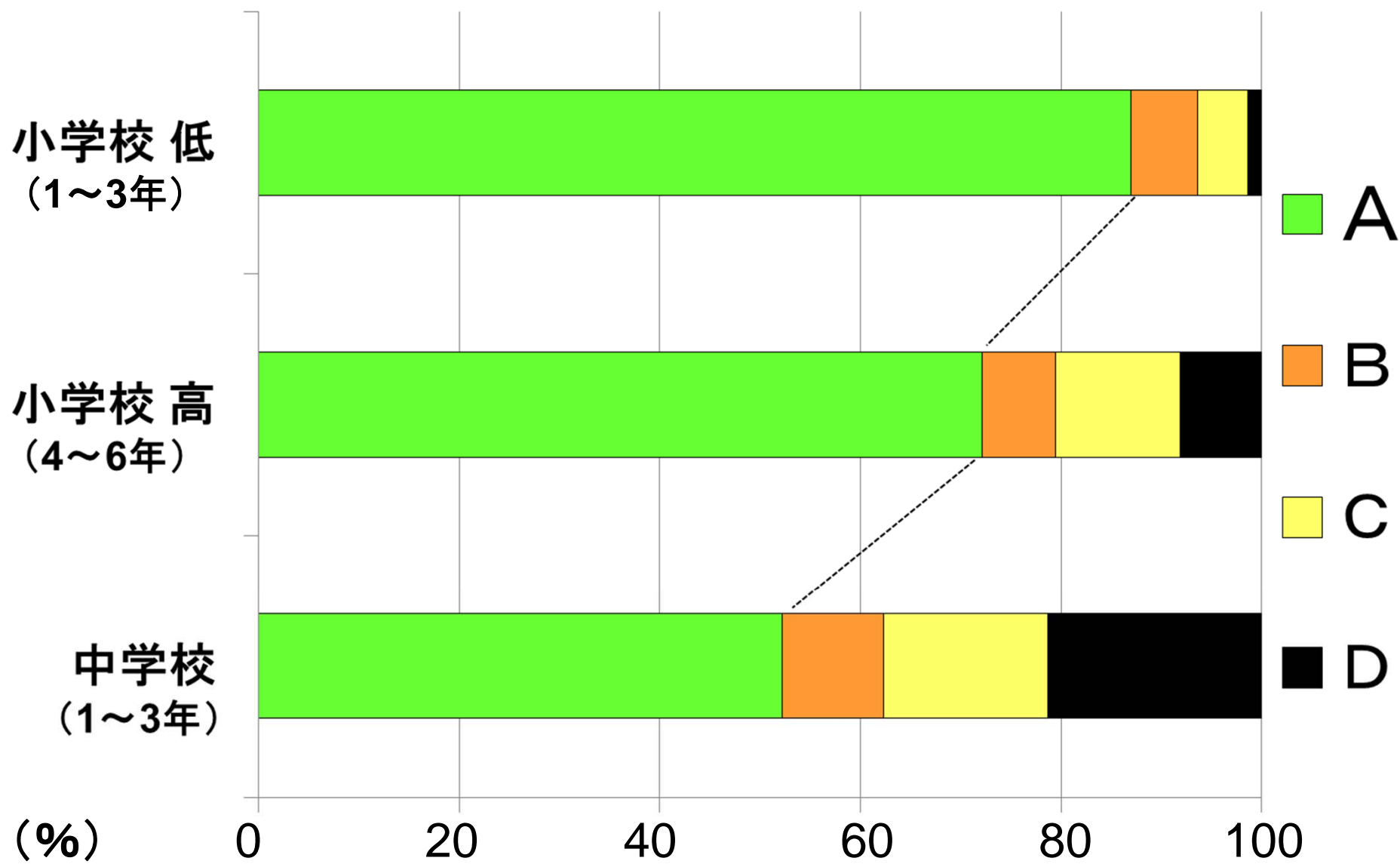
自覚的裸眼視力は、並列視力照明装置で、一部は、著者の開発した **HOYA** レンズ<sup>®</sup> 製の学童用視力検査器である。

他覚的屈折度は、トプコン製オートレフラクトメーター **AR-6600** に依

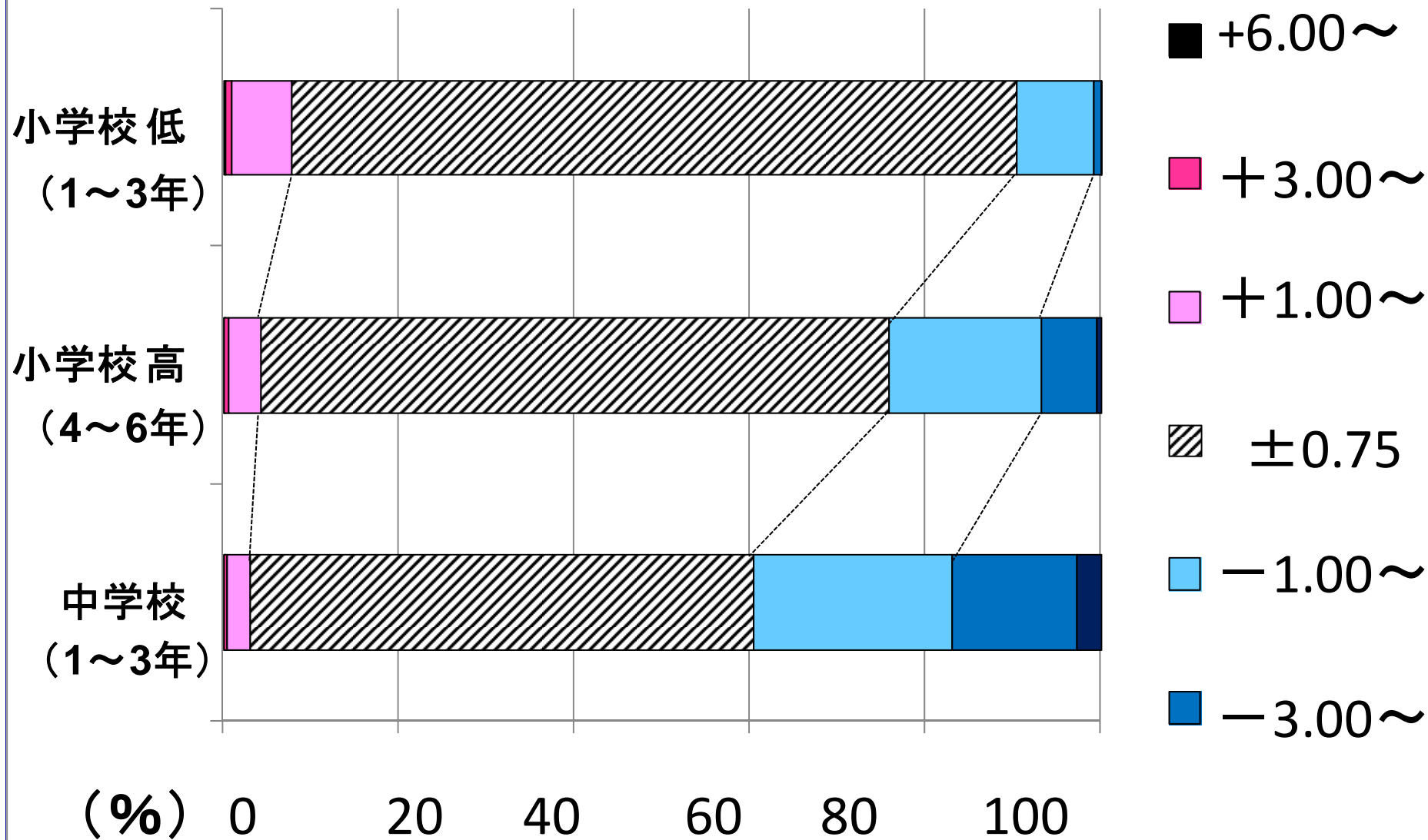
# 結 果

今回、他覚的屈折度と自覚的裸眼視力との関係を見た結果は、次のとおりである。

# S63~H8 自覺的視力 (%)



# S63~H8 他覚的屈折度 (%)



S63～H8 屈折度と自覚的視力(A・B・C・D)の関係を示す表

視力 屈折度	学年		%			
			A	B	C	D
+6.00～	小学校	低(1～3)	<b>20.0</b>	5.0	55.0	20.0
		高(4～6)	7.7	0.0	38.5	53.8
	中学校	1～3	11.1	16.7	33.3	38.9
+3.00～ +5.75	小学校	低(1～3)	42.4	25.4	23.7	8.5
		高(4～6)	30.0	15.0	47.5	7.5
	中学校	1～3	5.0	50.0	42.5	2.5
+1.00～ +2.75	小学校	低(1～3)	79.4	11.9	7.6	1.0
		高(4～6)	72.4	11.5	13.2	3.0
	中学校	1～3	66.0	12.4	16.2	5.5
+0.75～ -0.75	小学校	低(1～3)	92.6	5.0	2.0	0.4
		高(4～6)	88.5	5.8	5.0	0.7
	中学校	1～3	<b>80.7</b>	10.1	7.2	<b>2.0</b>
-1.00～ -2.75	小学校	低(1～3)	52.7	15.5	25.3	6.5
		高(4～6)	32.4	13.7	34.7	19.2
	中学校	1～3	17.2	14.9	37.3	30.5
-3.00～ -5.75	小学校	低(1～3)	15.8	5.3	43.9	35.1
		高(4～6)	4.2	5.2	31.2	59.5
	中学校	1～3	1.5	2.7	20.7	75.1
-6.00～	小学校	低(1～3)	<b>16.7</b>	0.0	25.0	58.3
		高(4～6)	7.7	0.0	12.8	79.5
	中学校	1～3	2.3	0.6	8.7	88.4



# 学校における視力検査の問題点

1. 測定条件
2. 測定環境
3. 検者
4. 被検者
5. 遮蔽器具
6. 測定順序

# 〈学校保健法施行規則の改正〉

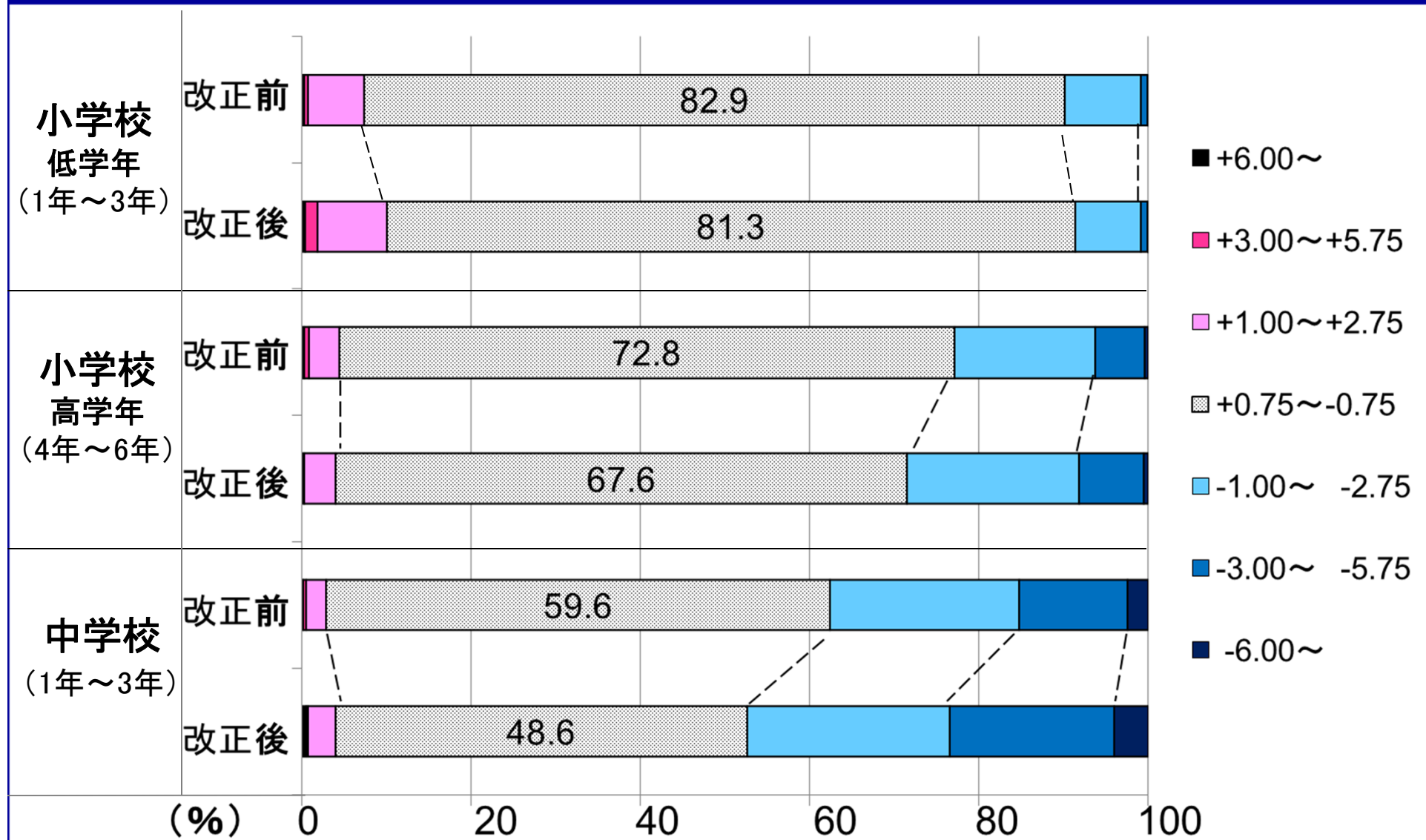
## ○ 裸眼視力測定

平成7年4月の学校保健法施行規則の一部を改正する省令により、裸眼視力の測定においては、「眼鏡を使用している者の裸眼視力の検査はこれを除くことができる。」  
とされた。

平成9年7月30日第22期 東京都学校保健審議会  
より

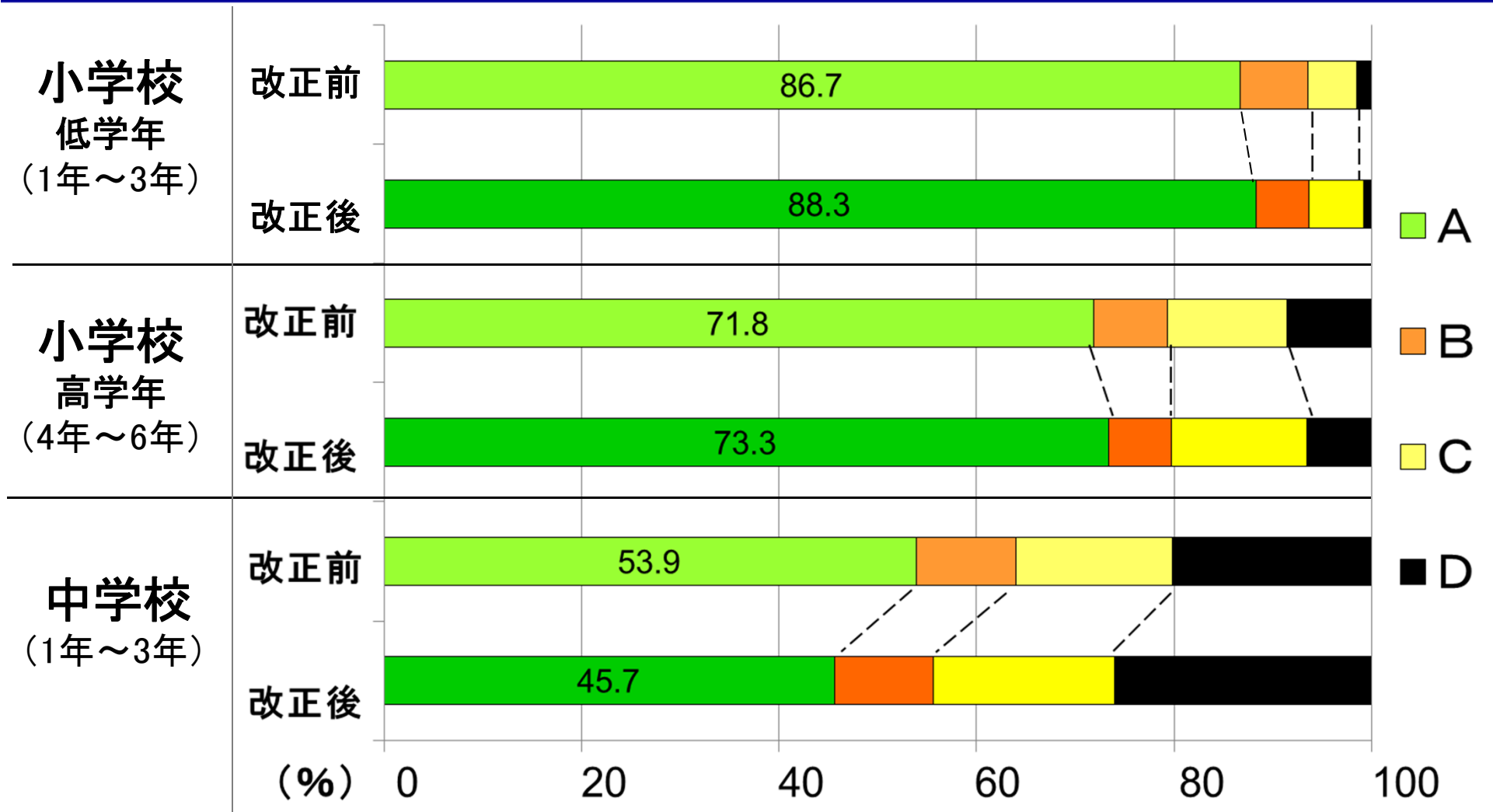
# 他覚的屈折度

学年別 改正前 (S63~H6) と改正後 (H7・8) の比較



# 自覚的視力

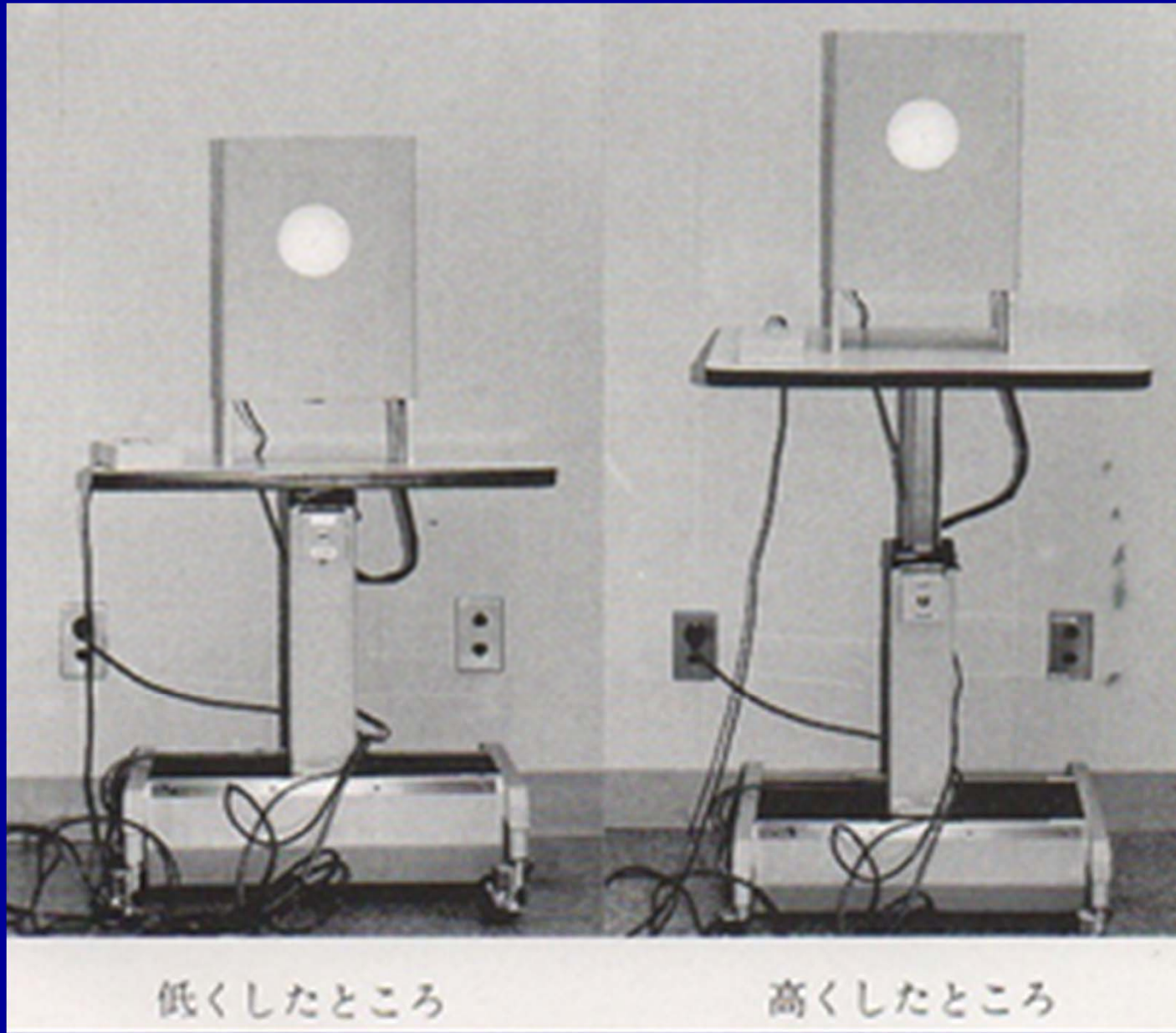
学年別 改正前 (S63~H6) と改正後 (H7・8) の比較



# 結 論

自覚的裸眼視力と他覚的屈折度とは、一致しない。諸条件を満たすには、検者の教育が必要であり、統計値の解読にも注意が必要である。また、それらの前提として、若年者の調節力は強いことと心因性視覚障害を念頭に置くべきである。今回は遠方視力値のみを対象としたが、今後は近距離視力測定も視野に入れるべきだろう。





低くしたところ

高くしたところ

HOYAレンズ製の学童用視力検査器 視標は、A (1.0) B (0.7) C